

幼児の英語学習について

A Study of English Learning in the Childhood

石 田 正 司

1. 序

外国語を習得することの重要性については、よく言われる。そしてその外国語習得について、検討されるべきいろんな問題が存在している。そのひとつの問題として早期英語教育の問題がある。この問題には、多くの関心興味がよせられている。それは、外国語習得という問題を解決するものではなかろうかと、考えられているからであろう。その幼児の英語学習について、考えてみたいと思う。

2. 幼児の英語学習の妥当性

2. 1

言語の学習と脳の発達の間をみてみた場合、脳の発達状況については、次のようにわけられている。第1期は、模倣期で生まれてから3歳頃まで、第2期は、創造期で4歳頃から10歳頃まで、第3期は、錬成期で11歳頃からあと。そして模倣期は、生活環境や家族の言動を模倣して神経細胞がからみあっていくという特徴を持っている。また創造期は、自分自身で用いてみようとする働きの神経細胞がからみあいはじめ活動しはじめるという特徴を持っている。このように脳が発達して行くことから、言語の学習時期には、母国語の場合でも、外国語の場合でも、この時期が非常に適切な時期だと考えることができるであろう。この点については、「生まれてから3歳ころまでの模倣の時期には、赤ん坊は自分のおかれた言語環境を模倣して、言語の理解や言語の発声の基本的パターンを身につけるのである。とくに、生後3、4月から1年にかけての喃語期には、赤ん坊はあらゆる性質の声をだすことができるのである。」⁽¹⁾ということばや、「こと

ばを理解し話す脳の働きからすると、自国語と外国語——これも1つではなく、2か国語でもよいが——同時に習っても一向に差支えがない。赤ん坊が日本語をしゃべり、英語やフランス語をしゃべることがありうるが、赤ん坊は日本語、英語、フランス語の区別をして使いわけているのではない。この人と話しをするときは日本語でないと通じない、この人と話しをするときは英語でないと通じない、と自然にそうするのであって、それ故、外国語を習う以上は、小さいとき、しかも1歳半ころから習うと非常に能率がよいのである。」⁽²⁾という、時実利彦氏のことばからもうかがわれるであろう。

2. 2

言語の学習にあたって、3つの点に焦点をあわせることが考えられている。それらは、**sound system**の習得、**arrangement**の特徴の習得、語いの習得である。そして**sound system**の習得と**arrangement**の特徴の習得は、無意識的になされるといわれている。これらの点についてC. C. Friesは、次の如く言っている。

In Learning a new language, then, the chief problem is not at first that of learning vocabulary items. It is, first, the mastery of the sound system—— to understand the stream of speech, to hear the distinctive sound features and to approximate their production. It is, second, the mastery of the features of arrangement that constitute the structure of the language. These are the matters that the native speaker as a child has early acquired as unconscious habits; they must be

come automatic habits of the adult learner
of a new language.⁽³⁾

そして母国語の場合を考えると、音声組織や文法構造の習得は、無意識のうちになされている。これらの事柄を考え合わせてみると、外国語学習は幼児期からはじめらるべきであるということになるのではなかろうか。

2. 3

外国語学習のひとつの目標として **bilingualist** になるということが考えられる。**bilingualism** については、次のような定義づけがなされている。

The demonstrated ability to engage in communication in two languages. Bilingualism does not presuppose complete and equal control of both languages, and it may take the form of the use of the two languages for different purposes and in different situations. Multi-lingualism refers to the ability to use more than two languages in this way.⁽⁴⁾

この目標を達成することは、たいへん困難であるが、その目標を達成するのに幼児期からの英語学習が注目されてよいであろう。外国生活の経験には、「(1)外国語をしゃべったり聞いたりすることには、おとなが心配するほどの抵抗はない。(2)その後、母国に帰ってくると、幼時にしゃべっていた外国語は急速に忘れてしまう。(3)ただし、幼時に外国語を使った経験が何らかの形で残っているらしく、母国でその外国語を学習し始めると上達が早い。特に発音がいいのが目立つ。」⁽⁵⁾というような特性があることから、周囲の者や家族の者が、外国生活にできるだけ類似した状況を作ってやるということが重要となってくるであろう。そのように幼児期から外国語に親しませていくことが、外国語習得の上で非常に意義あることとなろう。

3. 幼児の英語学習の目標、内容、方法

3. 1

幼児の英語学習の目標は、どのように設定したらよいであろうか。幼児の英語教育の場合は、目標が定まっていないようである。それは、「ところが幼児の早教育の場合、その目的なり目標なりは、正直に言って、明確化されていない。おびただしい数の教材が各出版社から競って出されているにもかかわらず、最も基本的な問題である早教育の目標というものは定められていないのである。もち論これらの教材をひもといてみると、その序文なり

解説なりに、個々の編著者が、その教材を編集するに当たって、念頭においていた目標が掲げられているが、それは飽くまでも、その特定の編著者が、その特定の教材を用意する過程において意識していたものであって、幼児の早教育そのものの目標ではありえない。⁽⁶⁾という、中尾清秋氏の言からうかがわれるであろう。それでは、幼児の英語教育の目標を、どこに置けばよいであろうか。中学の1年生の英語教育の目標は、中学校学習指導要領によると、「(1)身近なことについて、最も初歩的な英語を用いて、聞くこと、話すことができるようにさせる。(2)外国の人々の生活などに関する最も初歩的な英語の文を読むことができるようにさせる。(3)身近なことについて、最も初歩的な英語を用いて、書くことができるようにさせる。」となっている。従って、幼児の英語学習の目標を、身近なことについての技能の習得ということに考えればよいように思う。すなわち、幼児が母国語で習得する身近なことについての技能と同じ身近なことについての技能を外国語で習得するということ、幼児の英語学習の目標と考えればよいのではないかと思う。C. C. Friesの言おうとしている所は、この点と一致しているように思える。

A person has "learned" a foreign language when he has thus first, within a limited vocabulary mastered the sound system (that is, when he can understand the stream of speech and achieve an understandable production of it) and has, second, made the structural devices (that is, the basic arrangements of utterances) matters of automatic habit. This degree of mastery of a foreign language can be achieved by most adults, by means of a scientific approach with satisfactorily selected and organized materials, within approximately three months. In that brief time the learning adult will not become a fluent speaker for all occasions but he can have laid a good accurate foundation upon which to build, and the extension of his control of content vocabulary will then come rapidly and with increasing ease.⁽⁷⁾

3. 2

幼児の英語学習の内容; すなわち **what to teach**, **what to learn** の問題であるが、これは身近なことについての言語表現ということになるであろう。「幼児の母国語習得の場合、その学習は教室などにおけるような人為

的なものではなく、幼児と母親などとの生活におけるごく自然な日常的状況における学習であり、そこにはいろいろ多様な状況が存在する。その中で幼児の興味や生活上必要なことがらについて言語表現が少しずつ着実に（母親には与えているという意識はなかろうが）与えられ、幼児が学びとって行くのである。多くの名詞、動詞、形容詞、副詞などはみな状況に対応する事物事象があるから身近な状況を踏まえて、しかもそれに当たる言葉が何回か使われているうちに、その語句に固定した意味内容のみこむのである。幼児にとっては、これらの言語形式の表わすものはほとんどが自分が体験できるものである⁽⁸⁾と小笠原林樹氏は述べているが、これは当然外国語習得の場合にも、あてはまることであろう。中学の1年生の英語学習の内容は、中学校学習指導要領によると、「ア音声、(ア)現代のイギリスまたはアメリカの標準的な発音。(イ)文の抑揚のうち、下降調および上昇調。(ウ)文における基本的なくぎり。(エ)文における基本的な強勢。(オ)語のアクセントのうち、第1次アクセント。イ文、(ア)単文。(イ)平叙文のうち、肯定文および否定文。(ウ)疑問文のうち、動詞で始まるもの、助動詞Can, Do, および Doesで始まるもの、or を含むものならびにHow, What, When, Where, Which, Who, および Whose で始まるもの。(エ)命令文のうち、Be 動詞以外の動詞で始まるもの。ウ文型、(ア)主語+動詞の文型。(イ)主語+動詞+補語の文型のうち、動詞がbe 動詞で、補語が名詞、代名詞および形容詞である場合。(ウ)主語+動詞+目的語の文型のうち、目的語が名詞および代名詞である場合。(エ)There is, There are およびLet us で始まる文型」となっており、ほかに語および連語、文法事項、文字、符号が、内容として挙げられている。それで幼児の英語学習の内容について考えると、学習内容は生活に必要な事項と定めるとよいと思う。日常生活は、対話の形式が中心だと思われる。従って、疑問詞を使う機会が多いと思われる。それ故、疑問詞 How, What, When, Where, Which, Who を含む文章は、学習する際の重要事項であり、徹底的に練習さるべきものであろう。また具体的な内容として、米国人の幼児の発話記録を参照するとよいと思う。その発話記録は、2歳と6歳の幼児を対象としたものである。この米国人の幼児が用いている言葉が、幼児の英語学習内容の目安となるであろう。以下いくつかその例をかかげてみよう。

This, too.

Car, Car, Car!

Whatter want? [=What do you want?]

Et-pla-in [=Jet-plane]

I'll bring some more.

That's a speed-boat.

High, high! Very high!

What do you want?

I was playing in the sand-box.

I've not had my supper.⁽⁹⁾

3. 3

幼児の英語学習の方法については、自然な方法が最適であると思われる。「幼児が母国語を習得していく過程はきわめて自然である。幼児に接している周囲の人びとも、子供に言葉を教えてやっているという構えはほとんどなく、幼児も言語を学習しているという構えはなく、ごく自然のうちに習得していくのがふつうである。そういう幼児に外国語を等しく自然に学ばせることはできないが、とにかくそれでも小学校高学年生や中学生などが学ぶのよりはるかに自然に学んでいることは事実である⁽¹⁰⁾という指摘もあるように、学習方法は自然な方法で行うのがよいようである。それと楽しみながら学習することが大切であろう。「幼児期とは遊びの時期である。幼児には学習としての学習を押しつけるわけにはいかない。たとえ、押しつけようとしても、それは反発されるだけである。学習も遊戯化されて初めて幼児の世界に受け入れられるのではなかろうか。これが絵を描かせたり、紙芝居をやらせたりして子供達を楽しませ、遊ばせながら、英語を身につけさせようという⁽¹¹⁾考えにつながっていると思われる。従って自然な方法で、楽しく学んでいくということを進めてゆくべきであろう。M. West も次のように考えている。

These substitution exercises should ordinarily be in the question and answer form. For example:

Is this a [-----A-----] or a [-----B-----]?

That is a [-----A-----].

What is this?

That is a [-----B-----].

[A. pencil/B. pen; pen/ruler; chair/table; window/door...]

Or in the case of Order and Response:

"Put your [A](on)your[B]"

"My [A] is on^{*} my [B]"

* (on, in, under...)

A [pen, pencil, hand, finger]

B [book, desk, head, arm].

This form makes the teacher's notes less bulky and the form is more easily read at a glance.

Step 1. Teacher drills the class with one of the exercises.

Step 2. Pupil questions pupil.⁽¹²⁾

4. 結

The purpose in learning foreign languages, then, must be in order to get a way of communication with places which our native tongue cannot reach, for there too may be persons with whom I, for some reason or other, desire to exchange thoughts, or at least from whom I wish to receive thoughts.⁽¹³⁾

幼児の英語学習について、ことばがJespersenも言っているように、伝達という機能を持っていることから考えてみた。幼児の英語学習は、脳の発達状況、言語の本質、等からみて、その妥当性を持っていると考えてよいであろう。それで幼児の英語学習についての今後の課題としては、その目標、内容、方法等の設定と明確化にあると思われる。

〔註〕

- (1) 時実利彦, 大脳生理学, 英語教育工学 1, 研究社, 1972, p. 218
- (2) 時実利彦, ことばと脳, 英語教育, 大修館, 1964. 9, p. 22
- (3) C.C.Fries, Teaching & Learning English as a

Foreign Language, The University of Michigan Press, 1945, p. 3

- (4) A.Valdman, Trends in Language Teaching, McGraw—Hill Book Company, 1966, p. 286
- (5) 羽鳥博愛, 心理学, 英語教育工学 1, 研究社, 1972, pp. 132~ 133
- (6) 中尾清秋, 幼児の英語教育の目標と指導法, 英語教育, 大修館, 1971. 9, p. 24
- (7) C.C.Fries, Teaching & Learning English as a Foreign Language, The University of Michigan Press, 1945, p. 3
- (8) 小笠原林樹, 幼児の言語生活と外国語学習, 英語教育, 大修館, 1971. 9 p. 18
- (9) 芳賀 純, 2 米国人幼児の言語発達の観察, 紀要, 大学英語教育学会, 創刊号, 1970, pp. 120~ 124
- (10) 小笠原林樹, 幼児の言語生活と外国語学習, 英語教育, 大修館, 1971. 9 p. 19
- (11) 中尾清秋, 幼児の英語教育の目標と指導法, 英語教育, 大修館, 1971. 9 p. 26
- (12) M.West, Teaching English in Difficult Circumstances, Longmans, 1960, pp. 60~61
- (13) O.Jespersen, How to teach a Foreign Language, George Allen & Unwin LTD, 1904, p. 5